

## 柵の中の不思議な光景

桐生敦子

精神病院男女混合病棟の昼下がり。

いつもの様に喫煙室は、吸わない人まで入っての大賑わい。談話室へと化している。

私と、少し年上の男性N君とで、高校時代の話になった。

N君「バイトしたな」

私「どこですか？」

N君「スーパー○○」

私「私も、そこでバイトした」

N君「最低賃金だったよな」

私「うん……」

N君「頑張ったよな」「若かったよな」

私「若かった……」

そんな話をして、互いに喫煙室を出た。

それから約一時間半後、どこからか、N君の歌声が聞こえてくる。

声のする方へと行ってみた。

すると、N君が自分の病室で、CDプレイヤーを片手に、イヤホンを両耳に付けた姿で、熱唱していた。それが、音楽を聞きながら歌っているのに、誰の何という曲なのか、さっぱり判らない。

そのうちに、ボルテージが上がってきたのか歌声は大きくなり、他の病室へまで入って歌っている。

聞いていて楽しいのだが、苦情が出ないのかと心配になってきた。

「この〜想い〜届けえ〜君の〜元へ〜」

N君が上機嫌で歌っている最中、仲の良い初老の男性に聞いてみた。

「N君の歌、騒音公害とかって苦情出ないのかな？」  
「騒音公害？わしは、あの歌を聞かんと一日が終わった気がせんのか？」  
「ああ、みんな、そんな風に思っているのかなあ？」  
とか思っているうちに、N君の歌声は病棟中に響き渡っていた。

その翌日も、N君の熱唱タイムは夕方から始まった。なんだか私はワクワクしてきた。

喫煙室へ行ってみた。喫煙室の中までN君の歌声は聞こえてくる。相変わらず、何の曲を歌っているのかは、さっぱり判らないが。

煙草をプカプカさせながら、ボーっとしていると、周りの皆が、口々に

「あの歌を聞かないと、一日が終わった気がしないんだ」  
と言っている。

「不思議な歌だなあ」と思った。

しばらく経って、N君の歌が聞けなくなるのは残念だが、退院する事になった。退院後の、ある眠れぬ夜、ふと、N君が何の歌を歌っていたのか知りたくなった。しかし、どうすれば判るのか。

「ああ、ネットで検索すれば良いんだ」  
早速検索開始。

キーワードは、

「この想い届け君の元へ」だけ。

一時間かけて、やっと、GacktのEtudeという曲だと判明。  
レンタルショップでEtudeの入ったCDを借りてきて聞いてみた。  
カルチャーショックを受けた私。

「N君の歌は全く別の曲と化している！」

その後、入院仲間と会う機会があった。

GacktのEtudeを聞いてもらった。

「全く別の曲になっている。良く、元歌を聞きながら、あれだけ音程を変えられるな」  
「才能だよな」

二人で納得した。

その数日後の診察日。何も話すことがなかったので、主治医にN君の歌の話をした。

「眠れなかった日に、N君が歌っていた歌を調べたんです。そしたら、元歌と全く違っていたんですよ」

すると、主治医が、

「ああ歌っているね。夕方病棟へ行く事が多いからね。何か、あの歌を聞かないと一日が終わった気がしないんだよなあ」

「えっ、先生までもが……」と思うと、悪いなとは思いつつも、診察室で笑い転げてしまった。

その後の、眠れぬ夜の度、N君の歌を録音しておけば良かったと、後悔しきり。

今日も病棟の皆の一日は無事に終わっただろうか。